６年　道徳科学習指導案

１　主題名

「きまりを守るということは」　C12　規則の尊重　　教材:『ここを走れば』(小学校道徳　６年　光村図書)

２　主題と指導の構想

（１）主題と児童

本校には学校のきまりがあり，本学級の児童も，それに則って生活することになっている。しかし,「学習に必要のない道具は持ってこない」「下校の際には，人の家の敷地に入らない」などの規則や，学校のきまりには掲載されていないような「廊下を勢いよく走る」「タブレット端末を学習以外の用途で使用する」などの学校や学級で定められた基本的なルールを守れていない姿がしばしば見られる。本学級は授業者である教諭が前年度担任をしていたが，5 年生の時からそのような様子が見られ，その都度，個別に，時には学級で発生した問題として共有し全体で指導してきた。今年度から学級担任が替わり，授業者は教科指導で 1 日に 1 時間だけのかかわりとなっている。しかし，現時点で規則について尊重し，遵守しようという風土が学級全体に醸成されているとは言い難い部分がある。

そこで本主題では，教材文を通して規則を守ることを前提に，規則がつくられる意義や規則を守ることで社会が保たれていることを考えさせる。このことにより,「祖父に会いたい」という個人的な思いで社会の規則を破ってはいけないこと，自分たちが守っている規則によって自分たちの安全が守られていることに気付いてほしい。そして,“与えられ従っていた”ものから“意義を理解し尊重する”ものへと意識の転換を図るきっかけになる授業にしたいと考えている。

（２）教材について

本主題では,『ここを走れば』(小学校道徳　6 年　光村図書 P127～130）を用いる。あらすじは以下の通りである。

> おじいさんが倒れ，父の運転で病院へ向かったが，高速道路で渋滞に遭った。路側帯を走っていく車を見て，妹と「ぼく」はここを走れないのかと聞くが，父は規則を守った。病院に着くとおじいさんは亡くなった後だった。路側帯を走っていればと思ったが，父の涙を見て，はっとした。

本授業では，p. 130 l1「いつもとちがって，厳しい父の表情でした。」までを提示する。①ぼくたちが高山に着いたこと②予定より遅れて夜になったこと③おばあさんから「もう少し早ければ生きて会えた」と伝えられたこと④ぼくが「あのとき路側帯を走っていたら」と心の中で思ったこと⑤父の目から涙がこぼれてぼくがはっとしたこと，の 5 点は伏せたまま展開する。

本学級は，その時の感情で判断する児童が非常に多いと考える。以前，道徳で「自分の心に誠実に」(教材『手品師』) で授業を行った際には,「一度交わした少年との約束は破ってはいけない。少年の元へいくべきだ。」という意見をもった児童は 30 名中 25 名であった。本授業においても，祖父の死に目に会えなかったという結果を提示すると「会えなくてかわいそう。やっぱり路側帯を走っておけば良かった」と考える児童が多数いると推測される。そこで，本授業では結果を提示しないことで「おじいさんが亡くなる前に会いたい」という「ぼく」の気持ちと「路側帯を走らなかった」という父親の行為に焦点を絞り,「会えなくてかわいそう」「お父さんが泣いているということは，お父さんも後悔しているのだろうか」という，祖父の死に目に会えなかったという結果から生じる価値の揺らぎをなくしたいと考えた。

（３）内容項目について

改訂された『学習指導要領特別の教科　道徳編』では，C12 規則の尊重の指導の要点第 5 学年及び第 6 学年について，以下の様に記述されている。(P51)

> 指導に当たっては，社会生活を送る上で必要であるきまりや，国会が定めるきまりである法（法律）などを進んで守り従うという遵守の精神をもつところまで高めていく必要がある。また，他人の権利を理解，尊重し，自分の権利を正しく主張するとともに，義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め，自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成することが重要である。また，身近な集団生活を送る上においても，みんなで互いの権利を尊重し合い，自らの義務を進んで果たすことが大切であるという理解と積極的な行動ができるようにする必要がある。

本主題では，父が運転する車の左脇の路側帯を 2，3 台の車がスピードを上げて通り過ぎて行き，それにつられるようにして前方の車も路側帯を走行する描写がある。父が路側帯の規則について説明するが，路側帯を走行した車の存在に疑問を持ち，その車について父に問う妹の描写もある。それらを踏まえ規則の遵守について理解する際に，上記にある「自分の権利を正しく主張するとともに，義務を遂行しないで権利ばかりを主張していたのでは社会は維持できないことについても具体的に考えを深め，自分に課された義務についてはしっかり果たそうとする態度を育成すること」に触れることができる。

（４）指導の構想

市小研道徳部の今年度の研究主題は以下の通りである。

> 他者とともによりよく生きようとする子供
> ～道徳的価値について実感を伴った理解を促す道徳授業を目指して～

研究主題を受け，道徳授業の中で，以下に示す子どもの姿を具現化できるように研究を進めていく，とされている。

> これまでの自分の経験と照らし合わせながら，道徳的諸価値の大切さだけでなくその実現に向けて困難さや課題があることも理解し，これからの生活の中で自分はどのようなことを大切にし，どのように行動していくかについて見通しがもてている。

上記の子どもの姿をもとに，市小研道徳部では副題にある「実感を伴った理解」を以下のようにしている。

> 実感を伴った理解＝自分との関わりで考え，納得した理解

本授業で，児童は「お父さんの行動についてどう思うか」と問われ，納得できるかできないか自分の考えをもつ。その後，そう考えた理由を話し合っていく。この活動は登場人物に自分を投影させて行為や心情を考えていく可能性と，物語を俯瞰的に聞きながら自分の考えを構築していく可能性が考えられる。いずれにしても，「どう思う」と問われることで，自分が納得できるかどうかを考えるので，状況や会話の中に見られる父の思いと自分自身の経験や思いなどを絡めながら進めることになるので，無意識のうちに自分事として考えを構築していくのではないかと考える。

また，自分たちが渋滞で停車している脇を，路側帯を走ることで通り過ぎる他の車（定められた規則を守らない他者）の存在やおじいちゃんに会いたくて焦る「ぼく」の言葉などが単純に「納得できる／納得できない」では片付けられない困難さを極め，規則を尊重するという価値の大切さと難しさをより深めることにつながっていく。

3　主題の構想

（1）構想

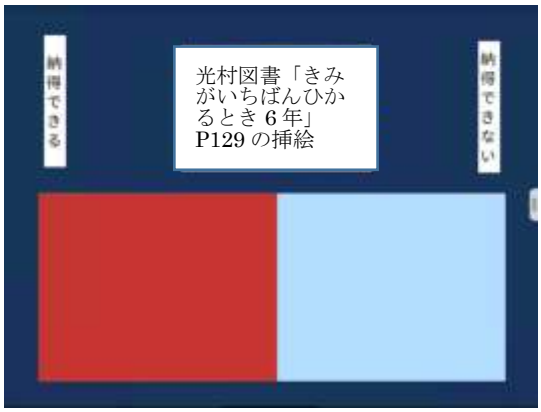
本授業では，問題について児童の考えの再構築（強化，付加など）をねらうこと，自分事として考えを深めていくことを目的とするため，ICT 機器の共有機能やネームプレートなどを使用した立場の表明を行わない。立場の表明や共有をしないことで，インプットされる情報に制限をかけ，話し合いで価値について迫ることを目指す。また，「お父さんの行動についてどう思うか」という批判的な発問をすることで，主人公などを客観的にみる科学的思考と，自分自身の気持ちや考えを明らかにする多角的な思考の獲得を促す。そして，色の割合によって現状の自分の心情を表すメーター（以下，カラーメーター）をロイロノートで用意する。児童はカラーメーターを使用して考えをもったら，提出のみを行いすぐに話し合いに入っていく。そうすることで，話し合いを通した他者との関わり合いが生まれる。

また，授業序盤で「規則は守るべき」という価値の前提をつくらず，話し合い終盤で一般化を図る。そうすることで，児童の中に「守るべき」だが「急ぎたい」という葛藤が生まれ，児童の実感に伴った理解につながると考えている。

（2）主な手だて

①ロイロノートによる考えの可視化

本時は，右のようなカラーメーターをロイロノートで送り，児童は手元のタブレット端末で自分の考え（納得できる／納得できない）を色の割合（納得できる・・・赤，納得できない・・・青）で表すようにする。一次元で表すことで考えをシンプルなものにし，色の割合を自在に動かして表すことで，二者択一では割り切れない微妙な思いの変化を表現する補助道具となることが期待できる。



また，回答共有はしないが，提出をさせることで授業者側は誰がどういう考えをもっているのか把握できる。これにより，意図的指名も可能になる。

さらに，授業中でも考えが変われば動かしてよいことを伝える。これによって，変化した児童に理由等を指名することも可能になる。

②子どもの状況に応じた問い返し

本時は，活動の中心が児童の話し合いになる。よって，学習課題になっている「お父さんの行動」について様々な角度から考えた意見が飛び交うことが予想される。そこで，授業者は児童の話の流れに沿いながら学習のねらいを達するための手立てを打つ必要がある。以下，想定される児童の話合いの流れと教師の手立て（問い返し）である。

【1】「納得できない」と考える児童が多数を占め，「今回のような状況であるなら，きまりは守らなくても良い」という意見が多く出たとき

①それでは，どういう状況ならきまりを守らなくてもよいと考えますか？それはなぜですか？

→（規則を遵守することに例外があるのかを考えさせる問い返し）

②今回のように高速道路で事故が起こった場合は，救急車などの緊急車両が通ることは考えられませんか？

→（緊急車両が通れないことで，他の命が救えない可能性を示す問い返し）

③自分たちが路側帯を通っても，おじいさんを救うことはできないのではないですか？

→（路側帯を走ることは，自分たちの思いを優先させたい気持ちの表れであり，直接命を救う行動ではないことに気付かせる問い返し）

【２】「納得できる」と考える児童が多数を占め，「きまりは守るべき」という考えが揺さぶられないとき

①もし路側帯を走ったとして，特に何も起こらなかった場合，「あのまま渋滞を待っていなくて良かった」と思うと思いませんか？

→（何も起こらない可能性があることに気付かせ，規則を守らないことを正当化しようとする問い返し）

②自分たちも急いでいるのではないのですか？

→（「早く会いたい」というぼくの気持ちを想起させることで，規則を守らないことを正当化しようとする問い返し）

③ルールを守らなきゃいけないことは分かってはいるけど，走ってもいいのではないですか？

→（「分かってはいるけどできないときもある」という現実に引き寄せる問い返し）

④隣を走り去った車が特に罰を受けることもなく，路側帯を通過できたらみなさんは通りたくなりませんか？

→（規則を破った他者が何事もなく生活を送れていることを知ったときに抱く嫉妬心を揺さぶる問い返し）

【３】おじいさんの性格である「がんこで，人に迷惑をかけることをきらう厳しい人」（p. 127 19）を根拠にした意見が多く出たとき

①それでは，「優しくて，ルールをあまり守らなくても気にしない言動が多い人」が同じような状況だったら，自分も同じようにルールを守らなくても良いのですか？

→（状況は同じだが，性格が違う人の場合も同じ事が言えるのかを考えさせる問い返し

【４】「罰を受ける」「罰金を取られる」など，自分が被る損で考えた意見が多く出たとき

①罰を与える立場の人に見られなければルールは破っても良いということですか？

→（規則そのものの存在意義を考えさせる問い返し）

③学習課題

本時は教材文に登場するお父さんの行動に関する学習課題１（「お父さんの行動について，どう思うか。」）と一般的な価値理解に迫る学習課題２（「誰のためにきまりを守るのか。」）を用意する。学習課題１は導入段階で提示し，話し合いにつなげる。話し合いの中で「法律」や「命」「きまり」「大切」など本授業で迫る「規則の尊重」の価値に関するワードが出てくると予想されるので，そこから学習課題２を提示し，他者や社会などの相手意識に視点を拡げられるようにしていく。

また，学習課題２は主語がない。物語に出てくるお父さんとも，その教材を基に話し合ってきた児童自身とも捉えることができる。どちらにも通用する問いを投げかけることで，教材から逸れることなく規則の尊重に一般化を図る。この課題を通して，自身の道徳的価値を見直し，きまりを守ることは自分自身のためだけでなく，周りにいる他者やその集合である社会を守り，成り立たせるためであるという本主題のねらいに児童を引き寄せる。

一方で，児童は物語の話に沿った学習課題１を進めることになるが，学習課題２が突然授業者から提示されることで思考が散在する可能性もある。そこで，話の流れによっては「誰のため」ではなく「なぜきまりを守るのか」という言葉で学習課題２を提示することも想定しておく。いずれにしても，一般化を図ることで，規則を守ることは個人の利益のためだけではなく，自分や集団・社会を守るためでもあると気付かせる一般化を図りたいと考えている。

4　本時の計画

(1) ねらい

法やきまりの意義や守ることの大切さについて，「お父さん」の行為について自分がどう思うか考え，検討することを通して，きまりを守ることは個人の利益のためだけではなく，自分や集団・社会を守るためでもあると気付き，規則の大切さを感じて生活していこうとする意欲を高めることができる。

(2) 展開

学習活動	教師の働き掛けと予想される児童の反応（含む学習内容）	■評価規準（観点/方法）　○留意点
導入（8分） 1. 教材文「ここを走れば」の内容をつかむ。	T1　みなさんどう思いましたか。 C1　なんでお父さんは急いでくれないんだろう。路側帯を走ればいいのに。 C2　お父さんの言っていた思いも分かる気がする。 学習課題１ お父さんの行動について，どう思うか。	○教科書 p. 130　11 までを印刷し，途中までを児童に提示する。 ○範読後，おじいちゃんに「命の危険があること」を強調することで，お父さんの行動に疑問をもたせる。 ○路側帯の画像を提示することで，イメージをもたせる。
展開（27分） 2. お父さんの行動について納得できるか，できないか考えをもつ。 3. それぞれの考えを発表し，話し合う。	お父さんの行動について話し合う。 T2　お父さんの行動について納得できますか。それとも，納得できませんか。 C3　納得できる。きまりを破ったらいけないのは当たり前。 C4　納得できる。法律で決まっているから，どんな事情でも破ってはいけない。 C5　自分たちが走ることで迷惑を受ける人がいるかもしれない。 C6　納得できない。おじいちゃんの命は一つだから，これを逃すと会えなくなってしまう。 C7　でも，会えなくなってしまうのは主人公の都合だよね。 C8　納得できる部分と納得できない部分が半々である。きまりを破ったらいけないのは分かるが，今回のケースは破ってもいいのでは・・・と思ってしまう。 T3　今回のお父さんは，「あんなことはできない」というかなり強い意志をもっていますよね。その意志についてはどうですか？ C9　路側帯を走った車につられなかったのはすごいと思う。 C10　気持ちは分かるけど，破って仕方ない状況だったと思う。 T4　万が一，事故が起きなかったり誰かが見ていなかったりしたら，お父さんは路側帯を走っていたのでしょうか。 C11　いや，そんなことはしないと思う。 T5　なぜ？ C12　もし自分のせいで助かる誰かの命が助からなかったら・・・と考えると思うから。	○自分の考えは「納得できる／納得できない」を色の割合（納得できる：赤　納得できない：青）で表したメーターをロイロノートで作成し，ロイロノート内の提出箱に提出させる。 ○話し合う中で自分の考えが変わったら，メーターを動かしてもよいこととする。 ○回答共有はせずに，話合いが停滞したときに意図的指名に使用する。 ○話し合いをするときは，机を円形にさせる。 ○児童から出された考えを黒板にまとめていく。 ○話し合いの流れを見ながら問い返して，考えさせる。

	C13　規則を守るのは自分のためだけではなく，他の人のことも守っているんだと思う。	
終末（10分） 4.きまりを守ることの一般化を図る。 5.本時を振り返る。	規則の尊重について一般化を図る。 学習課題２ 誰のためにきまりを守るのか。 （なぜきまりを守るのか。） C14　今回の話で言うと，路側帯を通りたい人だよね。そして，それは事故で命の危険が迫っている人たちを救うことになると思う。 C15　私たちが廊下を走らないのも，ぶつかって怪我をする人を守るためだし，自分が走らないことで走る人が少ない学校にしていくためだと思う。 まとめ お父さんの行動については、「納得できる」あるいは「納得できない」 理由は〇〇だから。 きまりを守るのは，◇◇のためであり，□□だから。 C14　きまりを守るのは，未然に命を守ることにつながるから。 C15　きまりを守るのは，たくさんの人が守ることで社会を成り立たせなければいけないから。 C16　今までは，きまりは「ただ守ればいいもの」としか思っていなかったけど，今日の授業で「なぜ」や「誰のため」まで考えることができた。	〇再度カラーメーターで自分の考えを表し，ロイロノートの提出箱に提出させる。 〇まとめは，文頭と文末を指定し，自分の言葉できまりを守る理由を書かせる。 ■本時の学習内容を踏まえて，規則を守る意義や守ることの大切さについて，自分の考えを理由とともにノートに記述している。（道徳的諸価値についての理解／ノート）

（3）評価

〇本時の学習内容を踏まえて，規則を守る意義や守ることの大切さについて，自分の考えを理由とともにノートに記述している。（道徳的諸価値についての理解）

（4）参考文献・資料

・「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科　道徳編」　文部科学省
・永田繁雄（2019）「新潟青陵大学・中越道徳教育研究会　道徳教育研修　講話用補助資料」

・授業で提示する路側帯の画像（Google Mapsより）